

第619回沖縄大学土曜教養講座

全学研究プロジェクト班「現代沖縄におけるジェンダー・女性・地域の総合研究」公開講座

性犯罪と刑事司法のいま

—〈ジェンダー・女性・地域〉の視点で問い直す—

2026年7月18日 13:00～16:00 (開場12:30～)

沖縄大学3号館101教室

日本の刑法における性犯罪規定は、2023年、大幅に改正されました。「不同意性交等罪」や「不同意わいせつ罪」の創設、性交同意年齢の引き上げ、また、時効延長や「性的姿態撮影等処罰法」が新設されるなどしました。しかし、この改正を経ても、性犯罪をめぐる刑事司法には、いまなお多くの矛盾や課題が残されています。性犯罪と刑事司法のいまを知り、また、沖縄で起きている性犯罪をめぐる裁判傍聴から見てくることを通して、沖縄における〈ジェンダー・女性・地域〉を問い直したいと思います。

報告者 矢野恵美(やの・えみ) / 琉球大学法科大学院教授, 琉球大学法務・コンプライアンス担当副理事・副学長, 琉球大学ヒューマンライツセンター長

近著として、『被害者学の現在地』(共編著、法律文化社、2025年)、『被害者の支援・加害者の出口支援』『ジュリスト』1611号(2025年)、『スウェーデンにおけるDV罪及び面前提問について』『千葉大学法学論集』39巻1号(2024年)、『受刑者を親にもつ子どもについて考える』『刑法雑誌』第63巻第2号(2024年)、『スウェーデンにおけるジェンダー主流化、女性犯罪者処遇、女性被害者施策』『法務総合研究所研究部報告』66(2024年)他。沖縄県犯罪被害者等支援審議会会長。沖縄県再犯防止推進計画検討委員会委員。北谷町男女共同参画会議会長等。

報告者 親川裕子(おやかわ・ゆうこ) / 沖縄大学地域研究所特別研究員・非常勤講師
ジェンダー、複合差別、国際人権法から沖縄戦後史を研究。近著として「戦後沖縄における「国際福祉」の萌芽「ハーフ・ウェイ・ホーム」から「国際社会事業団沖縄代表部」の設立へ；ミネソタ大学エルマー・L. アンダーソン図書館社会福祉史アーカイブ(SWHA)調査について」(同志社大学アメリカ研究所『同志社アメリカ研究』第61号、2025年)、『戦後沖縄における国際福祉—中部地区社会福祉協議会における女性たちの実践—』(沖縄大学地域研究所『地域研究』第33号、2026年)他。「新崎盛暉平和活動奨励基金」運営委員。

コメンテーター 森川恭剛(もりかわ・やすたか) / 琉球大学人文社会学部教授
1966年生。1995年から琉大教員。博士(法学)。著書『性暴力の罪の行為と類型』(法律文化社・2017年)、論文「差別犯の違法性」『ハイトクライムに立ち向かう』(日本評論社・2024年)、『胎児の障害と人工妊娠中絶』『講座障害法第2巻』(生活書院・2025年)所収等。沖縄愛楽園・宮古南静園の人権擁護委員会委員。

コメンテーター 富山侑美(とみやま・ゆみ) / 沖縄大学経法商学部准教授
成城大学法学部卒、同大学院法学研究科博士前期課程修了(修士(法学))、北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学(博士(法学))、北海道大学大学院法学研究科助教を経て、現職。専門は刑法(被害者の同意)、医事法(インフォームド・コンセント)。

司会・コーディネーター 若林千代(わかばやし・ちよ) / 沖縄大学経法商学部教授
1988年派遣学生として沖縄大学で学ぶ。2008年から沖縄大学教員。専門は沖縄現代史 / 東アジア国際関係史。主著『ジープと砂塵—米軍占領下沖縄の政治社会と東アジア冷戦1945～1950—』(有志舎、2015年)。

問い合わせ先：沖縄大学地域研究所
住所：那覇市宇国場405番地
TEL：098-832-5599
Email：chiken-staff@okinawa-u.ac.jp
窓口：平日8:30～17:15

参加費
無料

右のQRコード
もしくは沖縄大学
ホームページから
お申込みください。



大学コンソーシアム連携 県民向け公開講座



県民カレッジ 連携講座

地域共創・未来共創の大学へ

